

基礎物理学研究所図書室紹介

基礎物理学研究所図書室 由本 慶子

基礎物理学研究所は、北部構内のグラウンド近くに位置しています。春には濃いきれいな花をつける2本の桜を従えた湯川博士像奥の湯川記念館も風情のある建物で、農学部表門や楽友



会館などと同じ設計者による建物と聞いています。その記念館隣の研究棟3階に図書室はあり、書庫からは

比叡山を眺めることができます。

当研究所は全国共同利用研究所の第一号として、国内外の基礎物理学研究者の研究にひろく資するように運営されています。図書室もその目的に従い、以前から利用対象者を限定せず、他大学所属の運営委員や研究会参加者等にも研究所構成員と同様の利用を認めています。例えば基礎研で開催される研究会の参加者は、期間中図書室資料の貸出や文献複写が可能で、実際利用も少なくありません。また、研究所では数日間程度から数ヶ月間滞在の研究員を全国から多数受け入れていることから、京大の図書室を利用するのがはじめての利用者が一年を通じて来られます。滞在日数や求めている情報もまちまちな利用者にとって必要なサービスは何かということを考えて、カウンターに立つよう努めています。

図書室の資料構成は、理論物理学とその関連分野の資料が中心です。平成15年には所蔵目録データの遡及入力が終了し、ネットワークを介して全ての図書の所在情報検索が可能になりました。それも数年前から遡及入力業務を主とす

る非常勤職員の雇用が確保できたからこそ可能になったことであり、遡及入力を図書室の電子化の基本と位置づけて下さった研究所内の理解の賜だと思っています。

遡及入力が一段落した現在取り組んでいる大きな作業としては、分類の付け替えが挙げられます。当研究所は平成2年に広島大学理論物理学研究所と統合されましたが、統合の際受け入れた約1万3千冊(図書)の資料については理論物理学研の独自分類がされており、基礎研のものとは分類系統が違っていました。これまで同じ主題の図書が2カ所に分けて配架されているという状況が続いており、利用者に不便をかけていました。それを改善すべく去年から広島大学の請求記号を付け替え、両者を混配する作業を進めています。

ここ数年資料の電子化が進み、図書館・室側のサービスも変化してきました。当図書室でも先に述べた遡及入力をはじめとし、電子化資料



の全学への利用提供や構成員への情報の提供など、図書室に足を運んで頂かないで済むようなサービスに力を入れてきています。と同時に、図書室に足を何度でも運んでもらうようにするサービスについても同じく力を入

れていかなければならないと思っています。どちらも利用者が図書館資料を有効に利用できる様な環境を維持する事に変わりはありません。今後も足を運んでいただかないで済むサービスと並行して、使いやすく心地よい空間・サービスを提供し、利用者に図書室に何度も足を運んでいただくのが目標です。

(ゆもと けいこ)